

群馬県 御中

分析レポート

夏はハンディファンのいらない25度の涼しさ・光きらめく冬。両方の顔をもつ赤城山。週末行こう！となる決め手として何が欲しいですか？こんな赤城山でどんな過ごし方をしたいか教えてください。

PoliPoli Gov

2026年3月20日



意見募集の概要・実施結果

- **調査方法**：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
- **意見募集のテーマ**
 - 夏はハンディファンのいらない25度の涼しさ・光きらめく冬。両方の顔をもつ赤城山。週末行こう！となる決め手として何が欲しいですか？こんな赤城山でどんな過ごし方をしたいか教えてください。
- **調査期間**：2026/2/5～2026/3/8（31日間）
- **調査地域**：全国オンライン
- **ページ閲覧数**：445
- **総コメントユーザー数**：159人（*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）
- **総コメント投稿数**：178件（*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出）
- **回答者の属性（必須回答）**：

①居住地(都道府県)

群馬県
東京都
埼玉県
千葉県
神奈川県
栃木県
茨城県
上記以外

②あなたの性別

男性
女性
回答しない

③あなたの年代

10代以下
20代
30代
40代
50代
60代
70代以上

意見募集の概要・実施結果

④赤城山周辺(前橋・赤城含む)訪問経験

- 何度も行ったことがある
- 1～2回行ったことがある
- 近くまでは前橋市には行ったことがあるが、赤城山は行ってないたことはない
- 行ったことはない

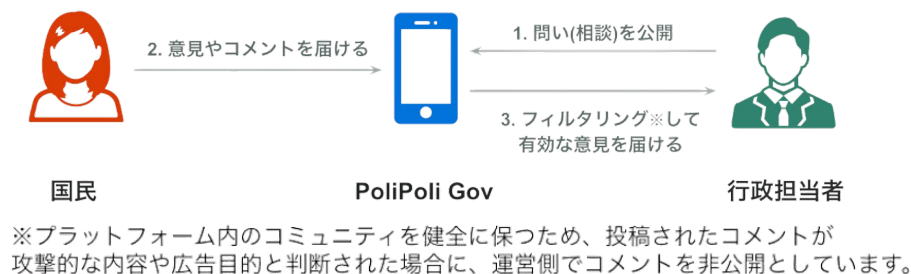
⑤同行者タイプ

- 一人
- 友人
- 恋人、夫婦
- 家族
- 団体

⑥移動手段

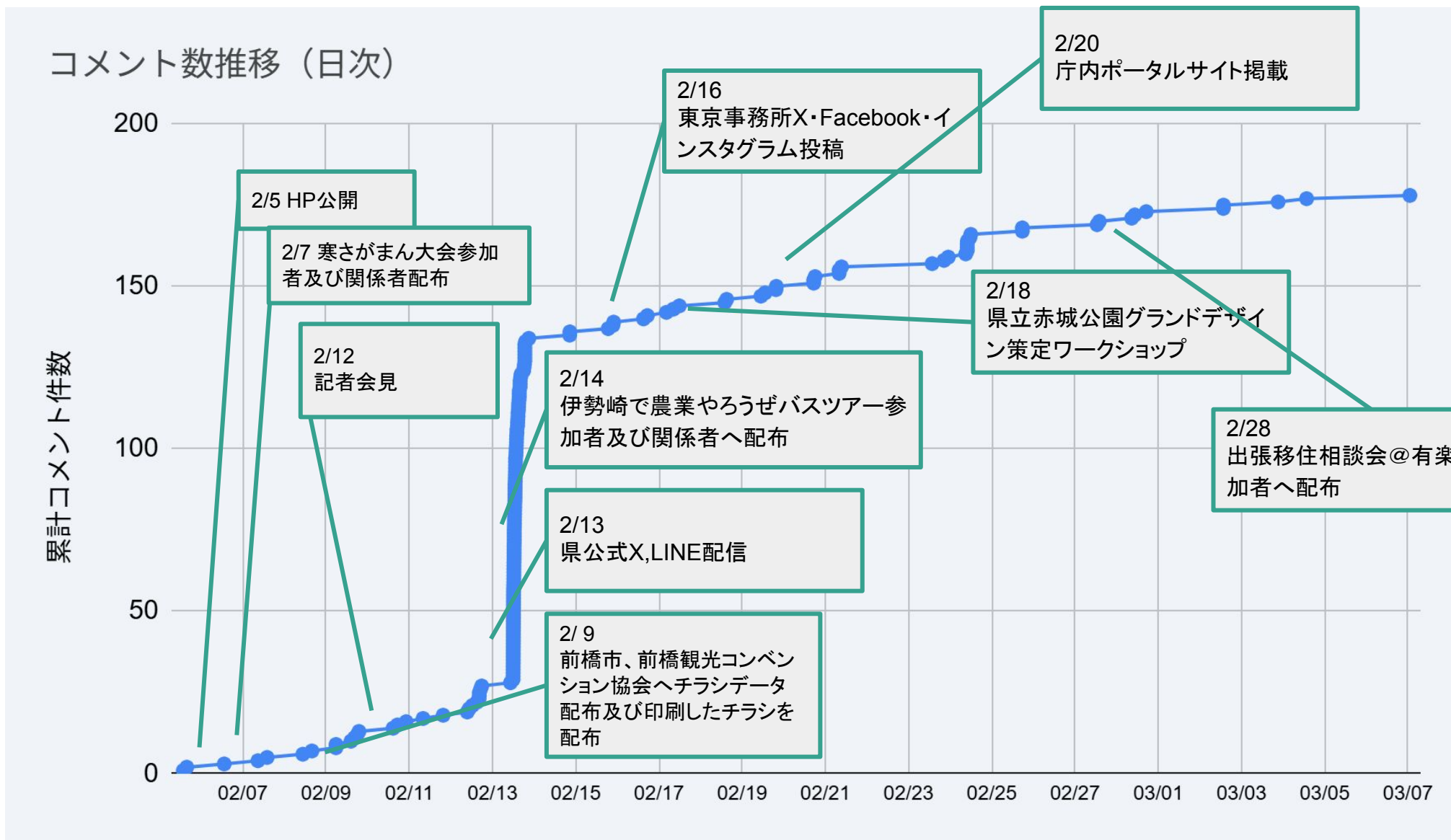
- 自家用車
- レンタカー
- 電車+バス
- ツアー等

意見募集の仕組み



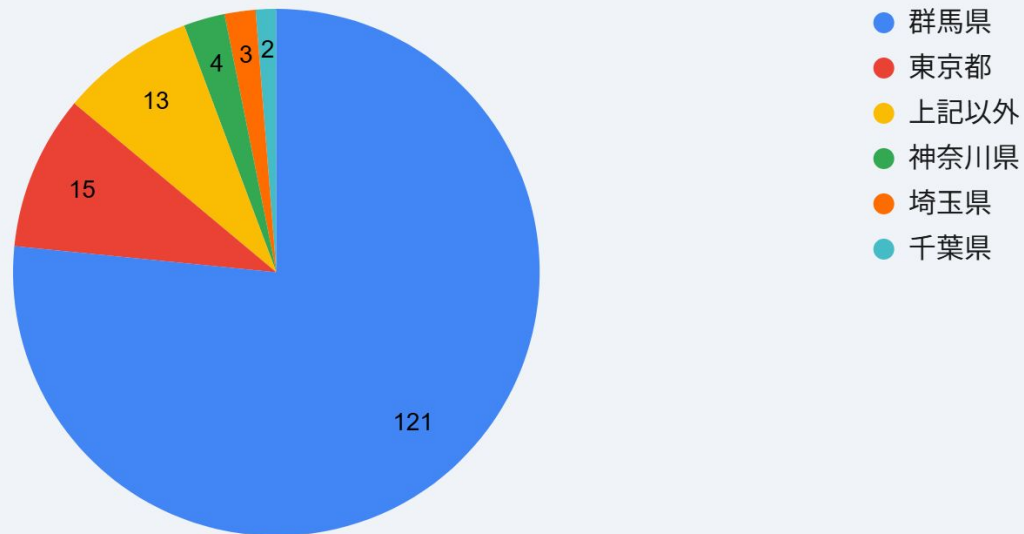
URL: <https://polipoli-gov.com/issues/fCS1oLOdZ7HrvVWmzbV1>

コメント数推移

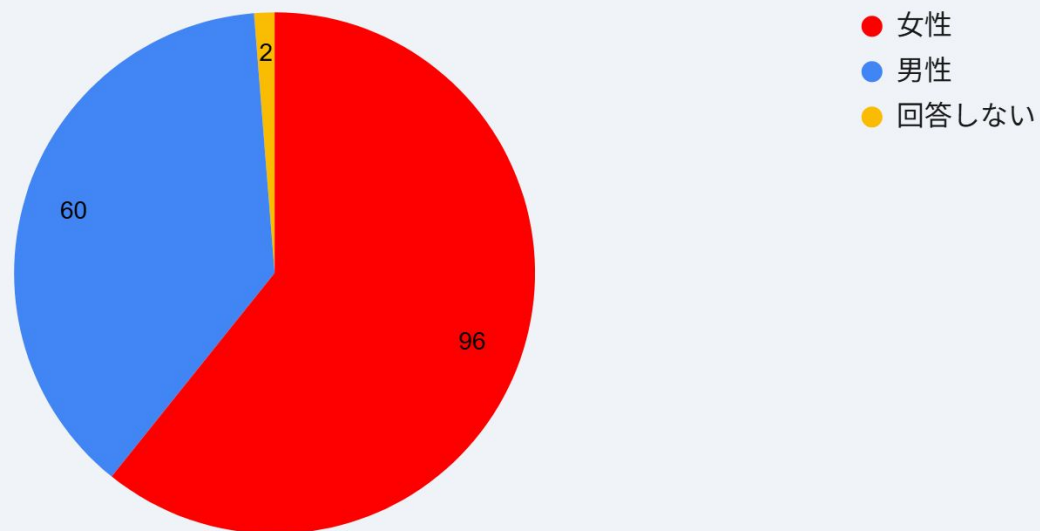


意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

①居住地（都道府県）の分布

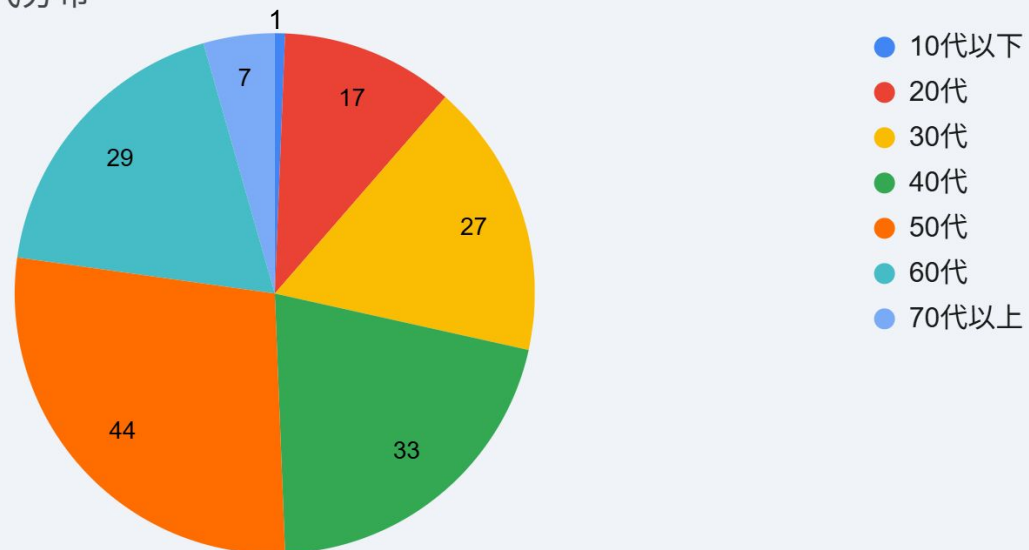


②あなたの性別の分布

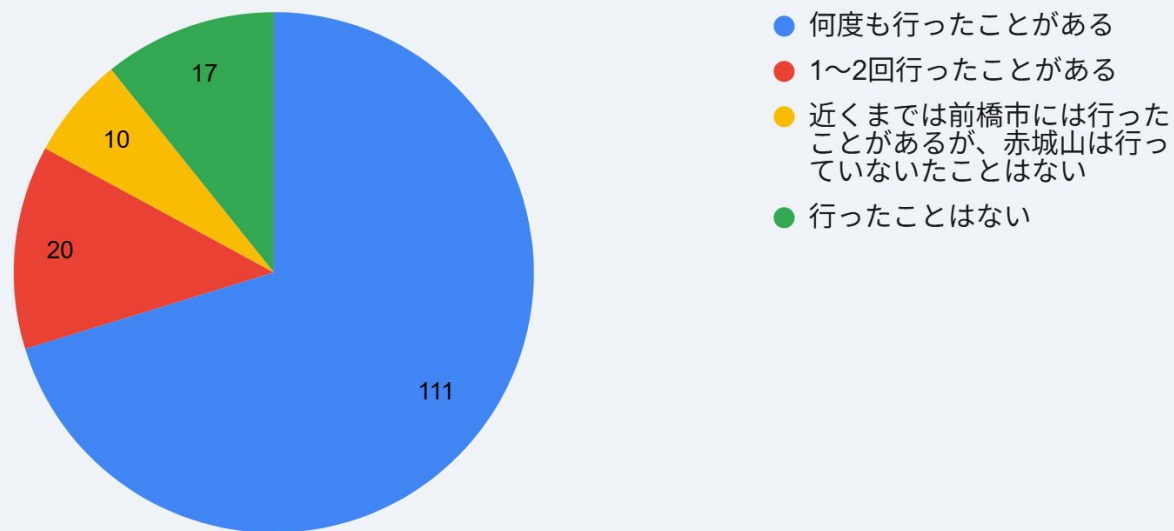


意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

③あなたの年代分布

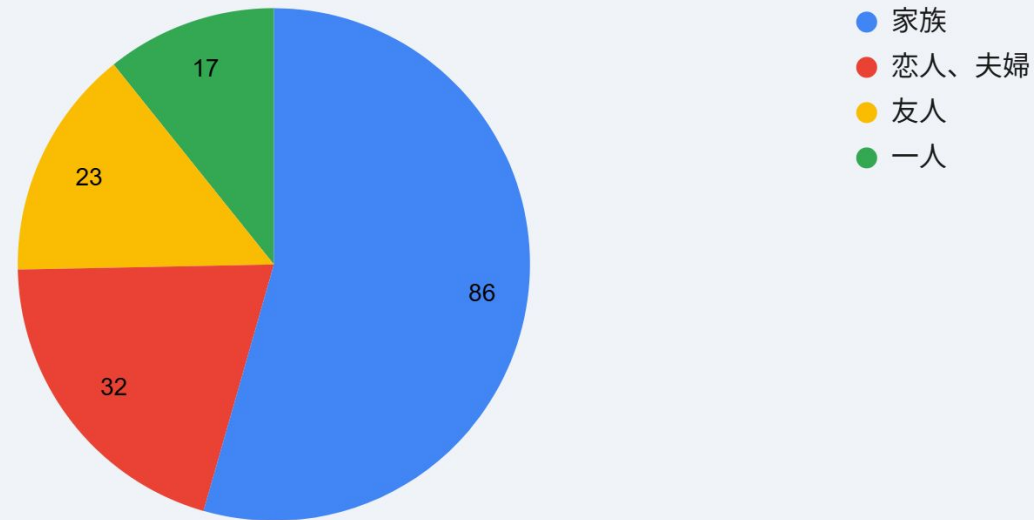


④赤城山周辺（前橋・赤城含む）訪問経験の分布

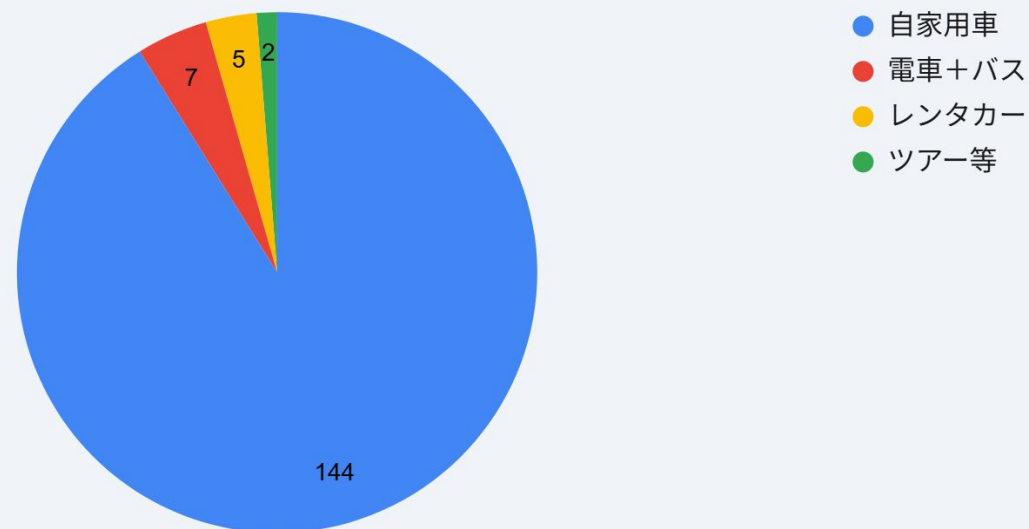


意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

⑤同行者タイプの割合

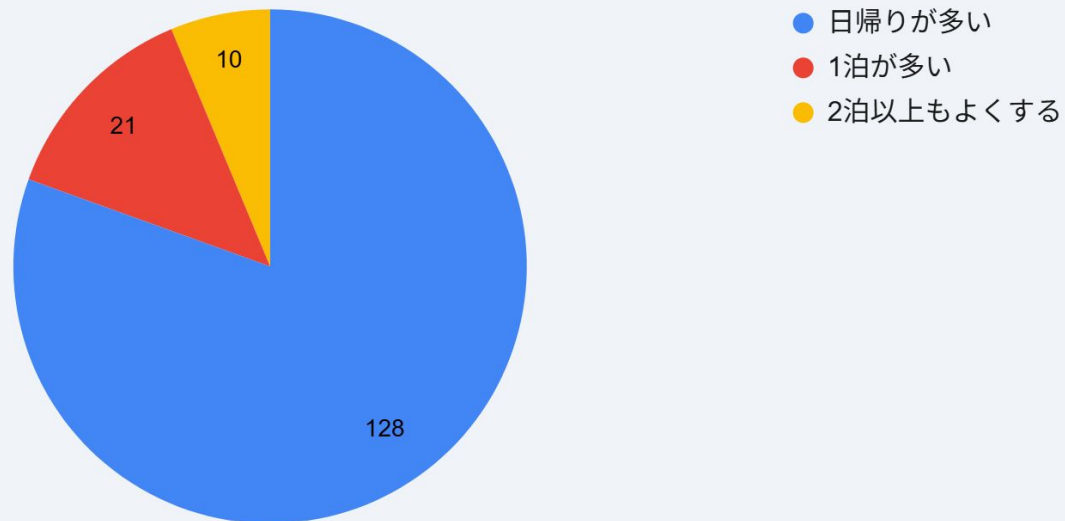


⑥移動手段の割合

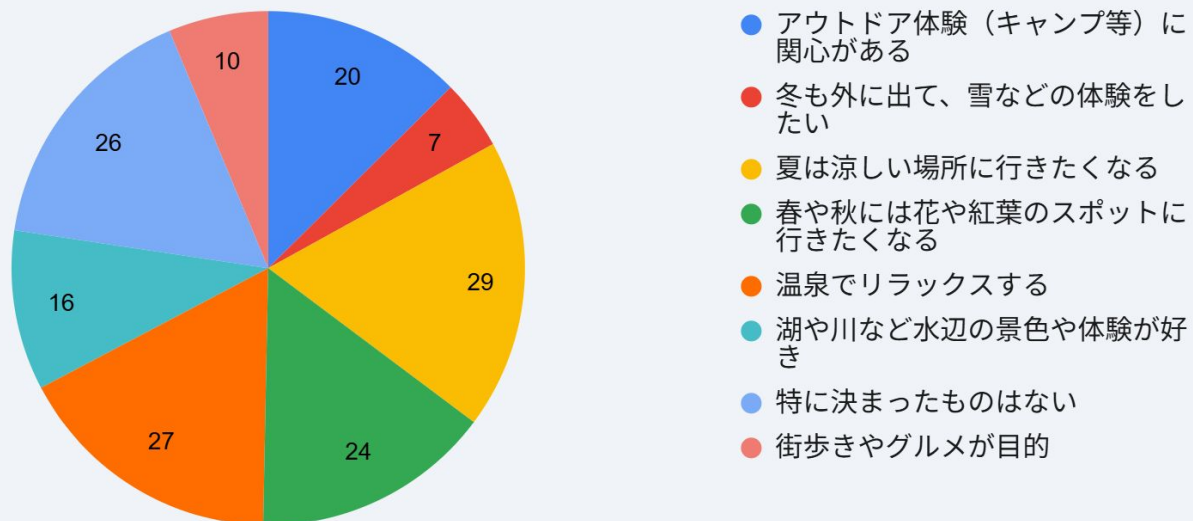


意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

普段のお出かけのスタイルの分布



普段の関心事項の分布



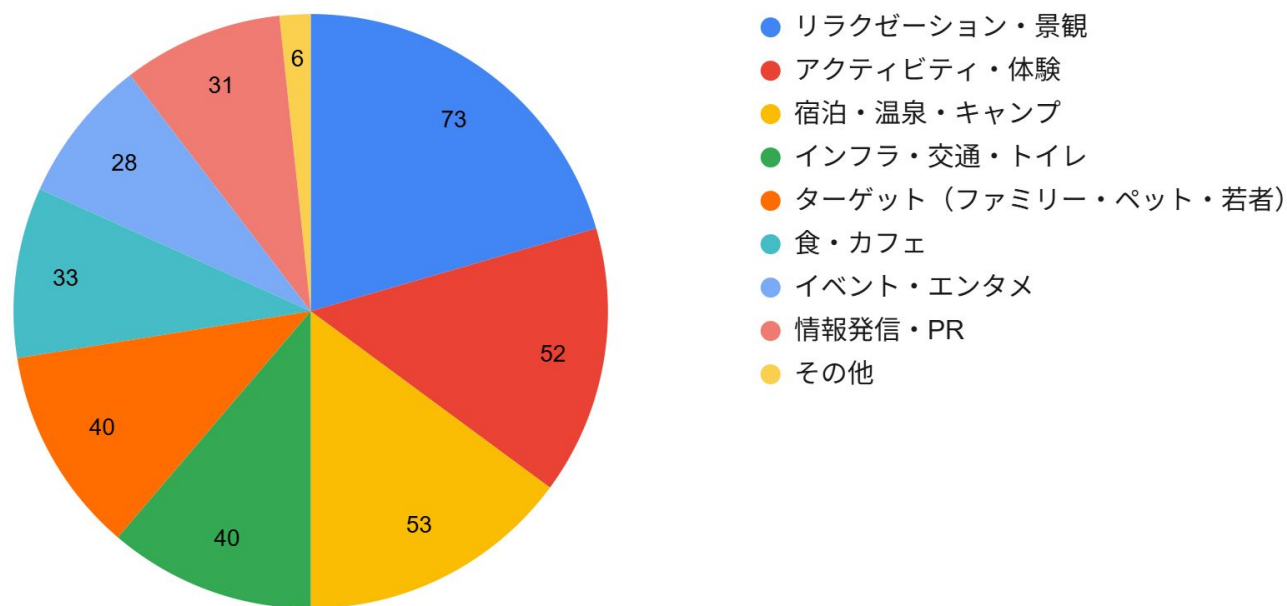
全コメントのカテゴリ分類（カテゴリ重複も全て集計）

コメントをカテゴリ化したところ、アンケート結果から見えた赤城山最大の魅力は、涼しさと静寂の中で心身を休めるリラクゼーション体験でした。日帰り観光から滞在型へ転換するには、自然を活かした「アクティビティ・体験」と「宿泊・温泉・キャンプ」のセット提供が望ましいと思われませんが、トイレの老朽化や冬道の不安といった「インフラ・交通・トイレ」がボトルネックとなっていました。

今春オープンするスノーピーク赤城キャンプフィールドやほぼの駅 AKAGIを起爆剤としつつ、快適に自然を楽しめる基盤（清潔なトイレやカフェ等）の整備も声としては上がっておりました。

「リラクゼーション・景観」と「アクティビティ・体験」のエリアを棲み分け、麓と山頂を繋ぐ周遊ルートを構築することで、滞在性を高められる示唆もありました。

カテゴリ化分布



全コメントのカテゴリ分類

カテゴリ名	カテゴリの説明	メインキーワード ※キーワードは参考であり、内容を一旦確認した上でのカテゴリ ライズとなっています。
リラクゼーション・ 景観	猛暑や日常の喧騒から離れ、涼しさや自然の静けさを満喫しながら心身を休める過ごし方（チェアリングや読書など）や、四季折々の美しい景色への期待に関する意見。	景色、静か、涼しい、ゆっくり、チェアリング、読書、雲海、星、のんびり、避暑、ワーケーション、自然、木陰など
アクティビティ・体 験	湖面を利用したカヌーやワカサギ釣り、初心者から楽しめる登山やハイキング、冬のスノーシューなど、季節ごとの自然を活かしたアクティビティや体験プログラムに関する意見。	カヌー、SUP、釣り、ワカサギ、登山、ハイキング、アスレチック、スノーシュー、雪、氷、体験、アクティビティ、自転車など
宿泊・温泉・キャン プ	滞在時間を延ばすための宿泊施設、自然の中で楽しむキャンプやグランピング、アクティビティや下山後に立ち寄りたい日帰り温泉の充実に関する意見。	宿泊、泊まる、ホテル、旅館、宿、温泉、キャンプ、グランピング、コテージ、入浴、お風呂など

全コメントのカテゴリ分類

カテゴリ名	カテゴリの説明	メインキーワード ※キーワードは参考であり、内容を一旦確認した上でのカテゴリライズとなっています。
インフラ・交通・トイレ	清潔で使いやすい公衆トイレの整備要望や、山道・雪道の運転に対する不安、路線バスの延伸や周遊手段など、アクセス環境の改善に関する意見。	トイレ、駐車場、バス、道路、運転、交通、送迎、カーブ、道、車、アクセス、渋滞など
ターゲット（ファミリー・ペット・若者）	子どもが1日中遊べる遊び場や、涼しい環境を活かしたペット（愛犬）同伴可能なスポット、若者や女性が訪れやすい空間づくりなど、特定層に配慮した環境整備に関する意見。	犬、ドッグラン、ペット、子、家族、ファミリー、キッズ、愛犬、若者など
食・カフェ	音楽フェスや季節のお祭り、『頭文字D』等のポップカルチャーを活用した聖地巡礼、スポーツ大会など、赤城山を舞台にしたイベントやエンターテインメントの開催に関する意見。	イベント、祭り、頭文字D、フェス、音楽、ライブ、前橋ウィッチーズ、花火、聖地、大会、モータースポーツなど

全コメントのカテゴリ分類

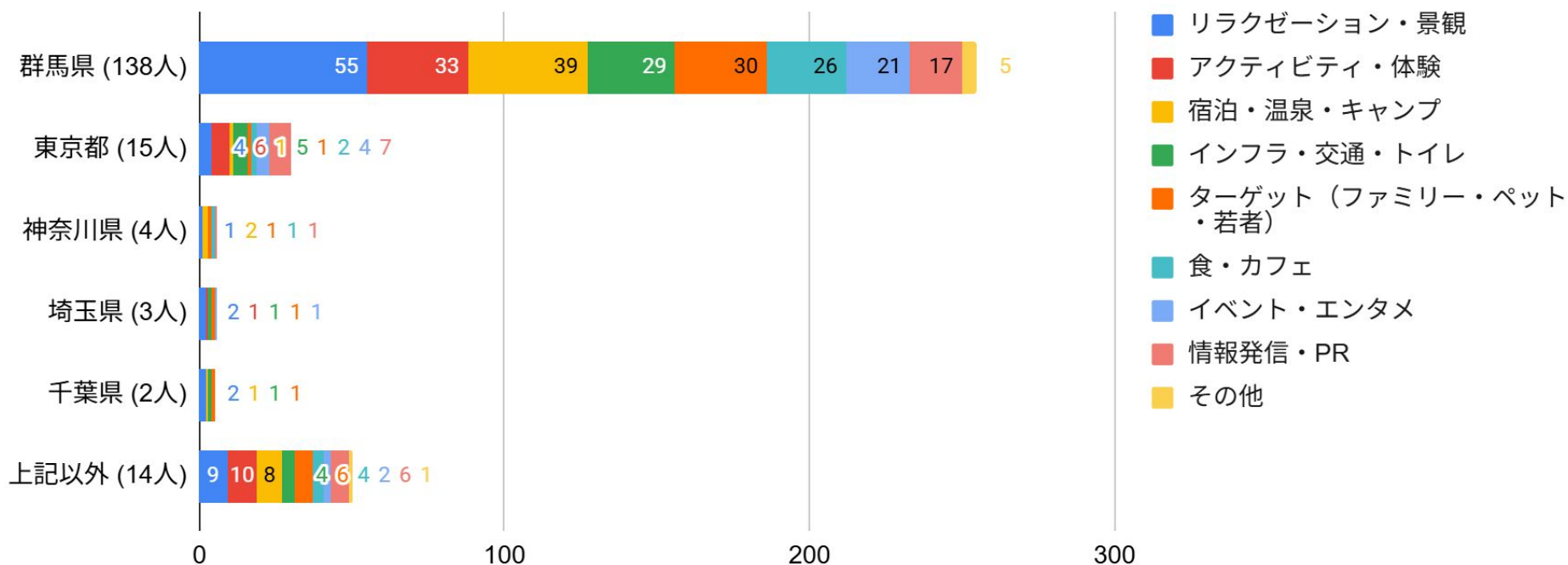
カテゴリ名	カテゴリの説明	メインキーワード ※キーワードは参考であり、内容を一旦確認した上でのカテゴリライズとなっています。
情報発信・PR	訪問者の共感を呼ぶ魅力的なメッセージの発信、モデルコースの提案、情報集約サイトやアプリ・SNSの活用など、赤城山のプロモーション手法や魅力の伝え方に関する意見。	宣伝、情報、PR、発信、コラボ、パッケージ、ルート、アプリ、スマホ、映え、ネット、ガイド、モデルコース、プランなど

クロス分析と考察

全コメントのカテゴリ分類

県民からは「リラクゼーション・景観（55）」や「宿泊・温泉（39）」が強く求められており、身近な避暑地やリフレッシュの場として機能していることが分かります。一方、東京都（15人）をはじめとする県外層では「情報発信・PR」や「アクティビティ」「インフラ」への言及比率が高くなっています。特に東京からの回答で「宿泊」が1件にとどまっている点は大きな課題であり、県外層には「赤城山＝泊まる場所」というイメージが定着していない可能性があります。首都圏からの宿泊客を誘致するためには、アクセスの良さをアピールしつつ、ここでしか体験できないアクティビティと魅力的な宿泊施設をセットにした発信が必要と考えられます。

①居住地（都道府県）×カテゴリのクロス集計（実数積み上げ）

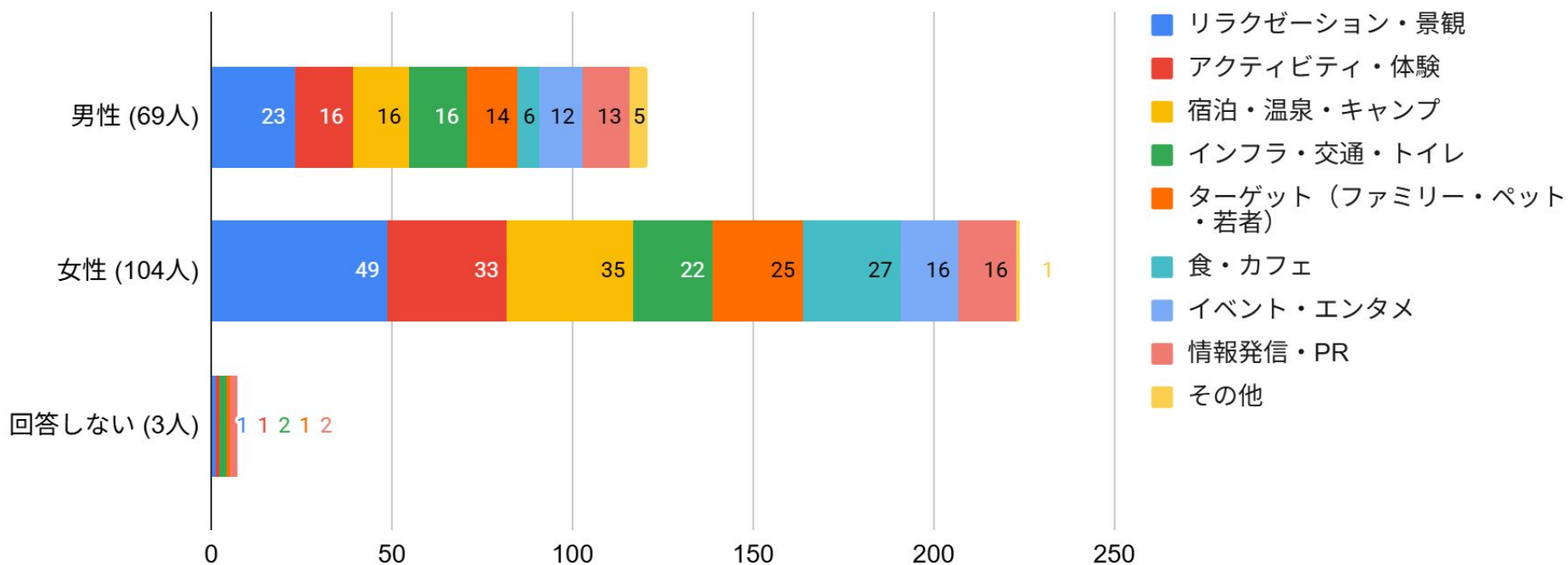


全コメントのカテゴリ分類

女性（104人）が男性（69人）を上回っており、女性は「リラクゼーション・景観（49）」「宿泊・温泉・キャンプ（35）」「食・カフェ（27）」への関心が特に高い傾向があります。ゆったりと景色を楽しみながら美味しいカフェタイムを過ごし、綺麗な宿泊施設や温泉で癒される滞在スタイルが好まれていると言えます。

一方、男性は「イベント・エンタメ（12）」や「インフラ・交通（16）」への関心が女性に比べてやや高く、体を動かす体験や車でのアクセス環境などに目が行く傾向が見られます。

②あなたの性別 × カテゴリ のクロス集計（実数積み上げ）

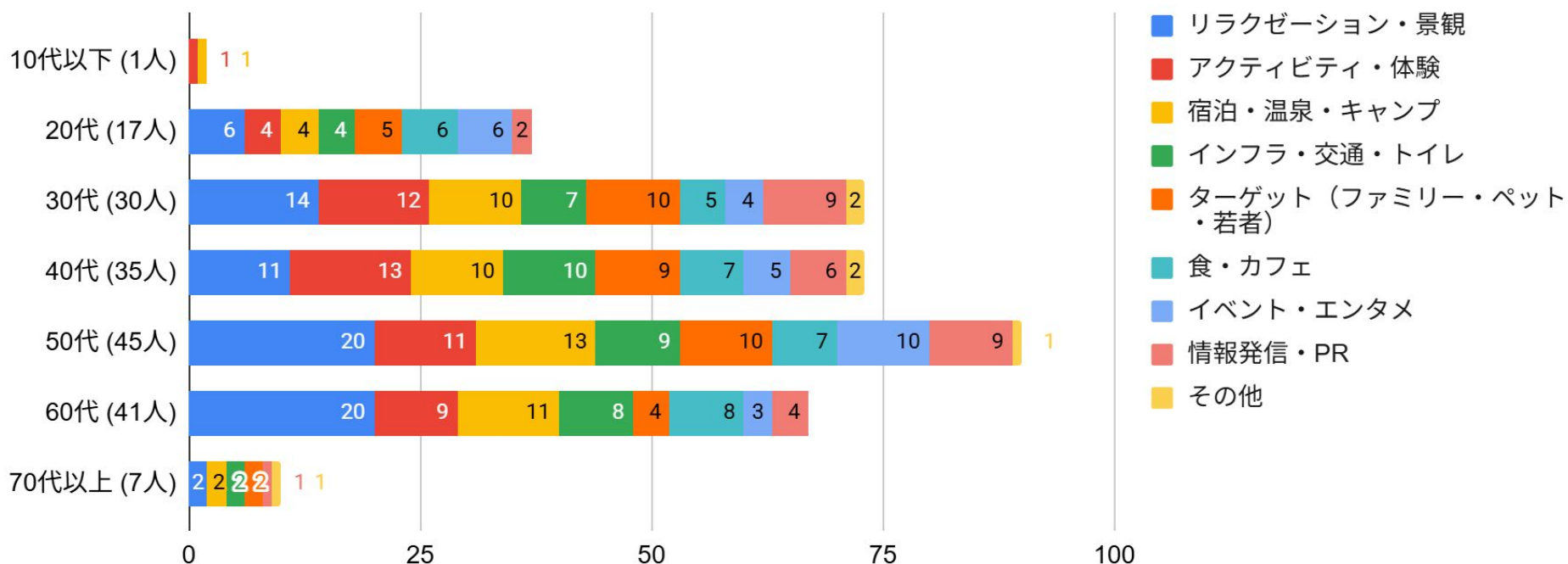


全コメントのカテゴリ分類

年代別に見るとニーズの違いが浮かび上がります。50代・60代のシニア層（計86人）は、「リラクゼーション・景観（40）」への関心が高く、静かな環境で自然や景色をゆっくり楽しむ「何もしない贅沢」を求めています。対して、30代・40代の子育て世代（計65人）は「アクティビティ（25）」「宿泊・キャンプ（20）」「ターゲット層向け設備（ファミリー等）（19）」のスコアが高く、家族で体を動かして遊べる体験を重視しています。

また、20代以下は「イベント・エンタメ」や「食・カフェ」への関心が相対的に高めです。全年代をひとまとめにせず、世代ごとの目的に合わせた「動のエリア」と「静のエリア」のすみ分けも必要と考えられます。

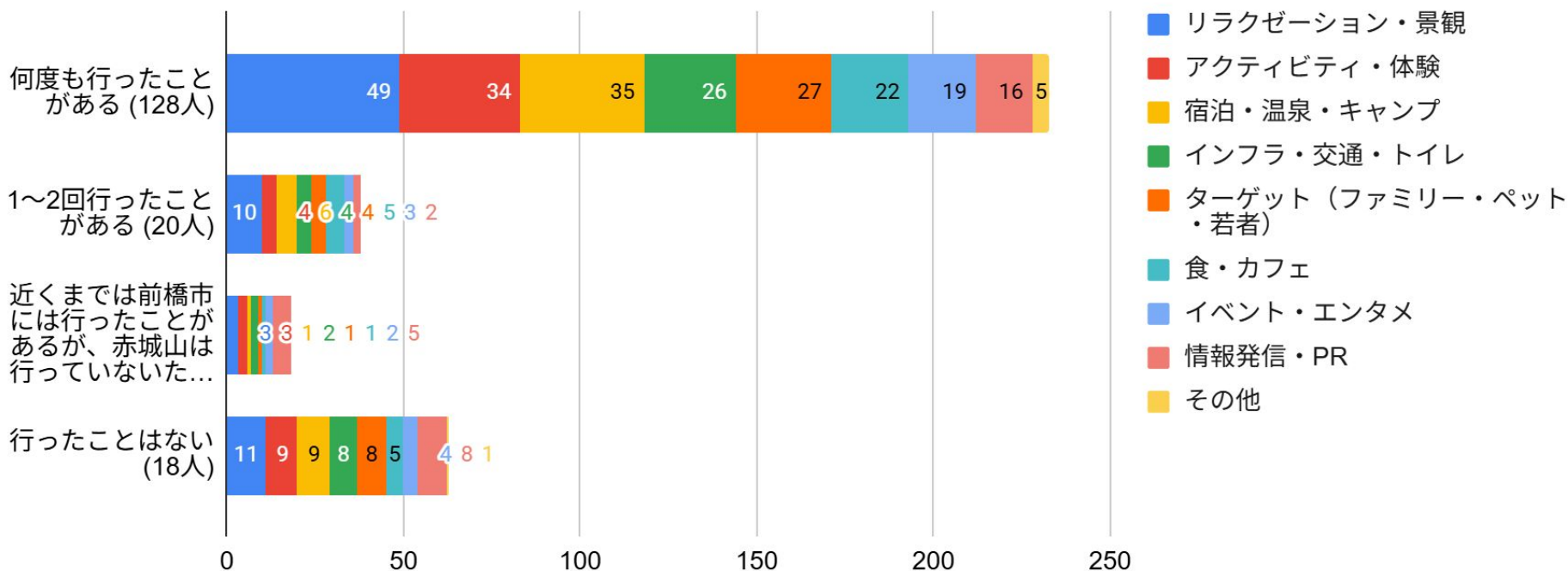
③あなたの年代 × カテゴリ のクロス集計（実数積み上げ）



全コメントのカテゴリ分類

「何度も行ったことがある」というリピーター（128人）は、「リラクゼーション・景観」を筆頭に幅広い要素を楽しんでおり、赤城山の自然環境にすでに高い価値を見出していると考えられます。一方、「行ったことはない」「前橋市街地まで」といった未訪問・周辺止まりの層（計28人）は、「情報発信・PR（13）」の割合が非常に高く、「情報がなければ行かない（どう過ごしていいかわからない）」という実情も考えられます。

④赤城山周辺（前橋・赤城含む）訪問経験 × カテゴリ のクロス集計（実数積み上げ）

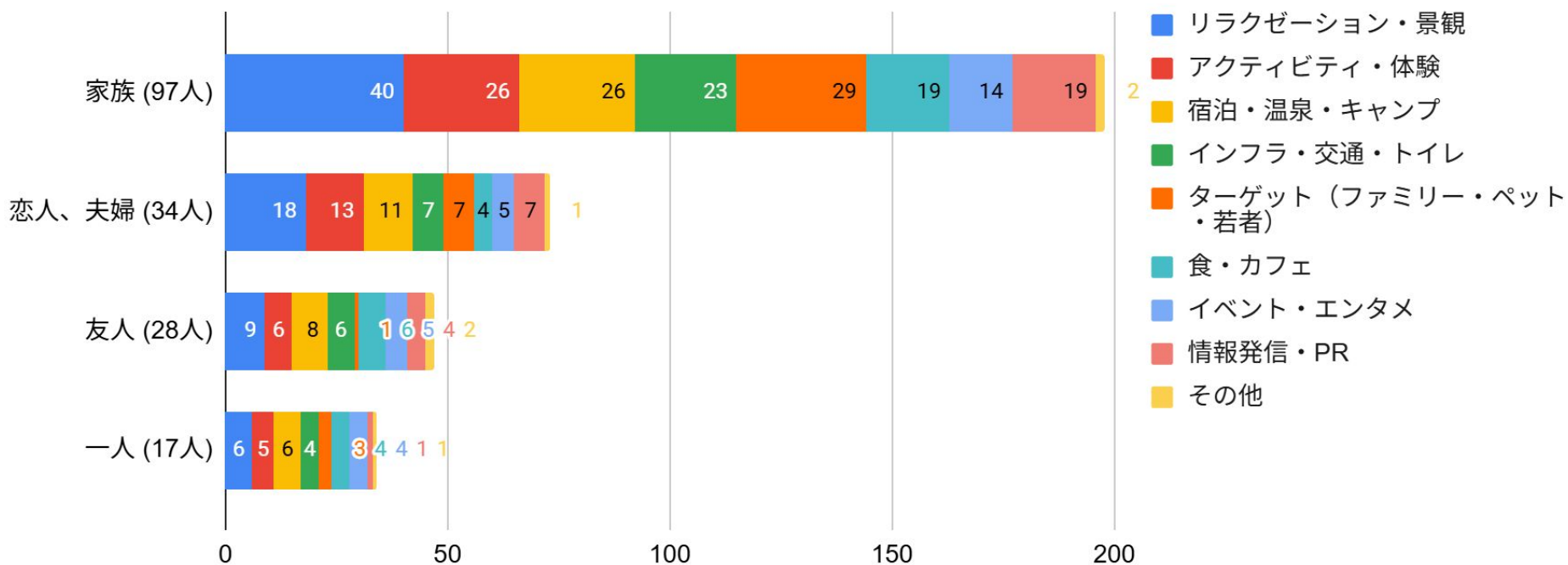


全コメントのカテゴリ分類

「家族」連れ（97人）が最も多く、この層は「リラクゼーション（40）」に加え、「ターゲット向け設備（ファミリー・ペット等）（29）」「アクティビティ（26）」「インフラ（23）」を重視しています。子供や愛犬と一緒に安全に遊べる環境や、清潔なトイレ・広い駐車場といったインフラ面が、家族旅行の行き先決定において重要なハードルになっていることが分かります。

一方、「恋人・夫婦」（34人）は「リラクゼーション（18）」「アクティビティ（13）」に集中しており、二人で静かに景色を楽しんだり、特別な体験を共有する時間を求めていると考えられます。同行者に合わせて、ファミリー向けの充実した設備と、大人向けに静寂を担保した空間の両軸を用意することも重要と考えられます。

⑤同行者タイプ×カテゴリのクロス集計（実数積み上げ）

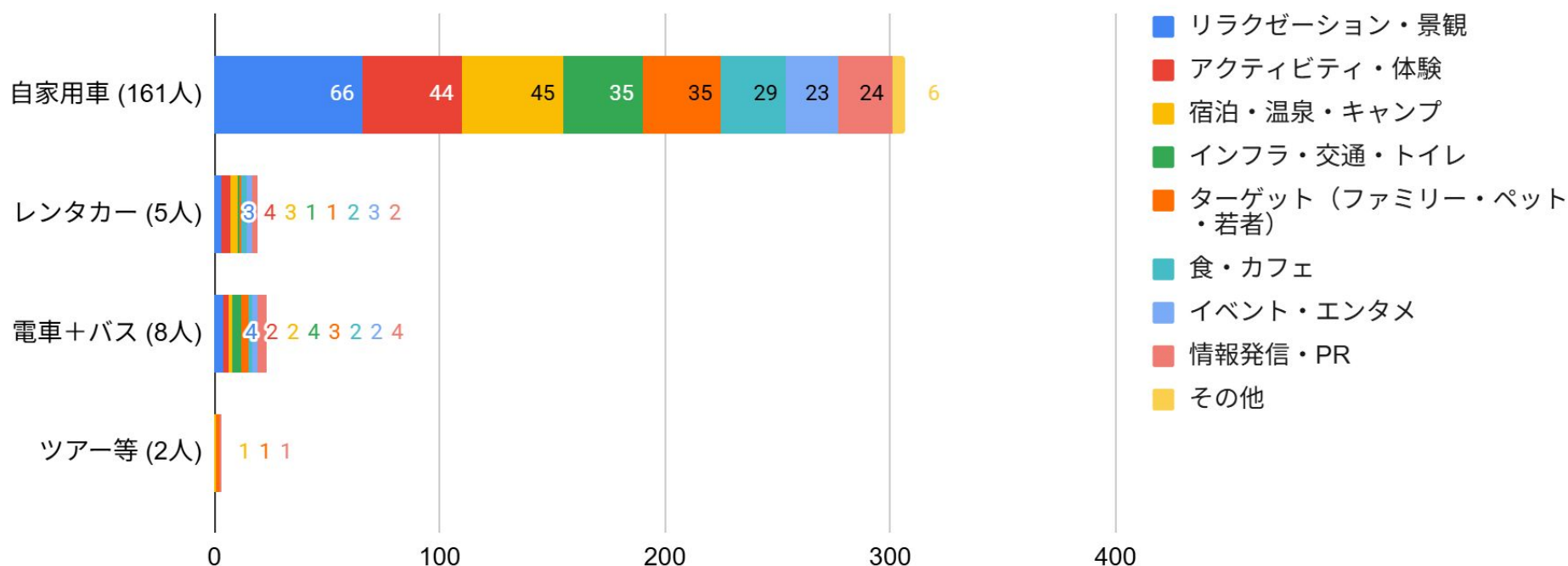


全コメントのカテゴリ分類

「自家用車」（161人）が圧倒的多数を占めています。車利用者は自ら山道を運転し現地の駐車場を利用するため、「インフラ・交通・トイレ（35）」に対する改善要求（雪道の運転のしやすさ、駐車場の整備など）を強く抱えています。

一方、「電車+バス」「レンタカー」などの非マイカー層（計13人）は全体の少数派ですが、「情報発信・PR」や「インフラ」への言及割合が高くなっています。これは、公共交通機関の便数の少なさや、車なしでの周遊ルートが分かりにくいことがネックになっていると考えられます。

⑥移動手段×カテゴリのクロス集計（実数積み上げ）

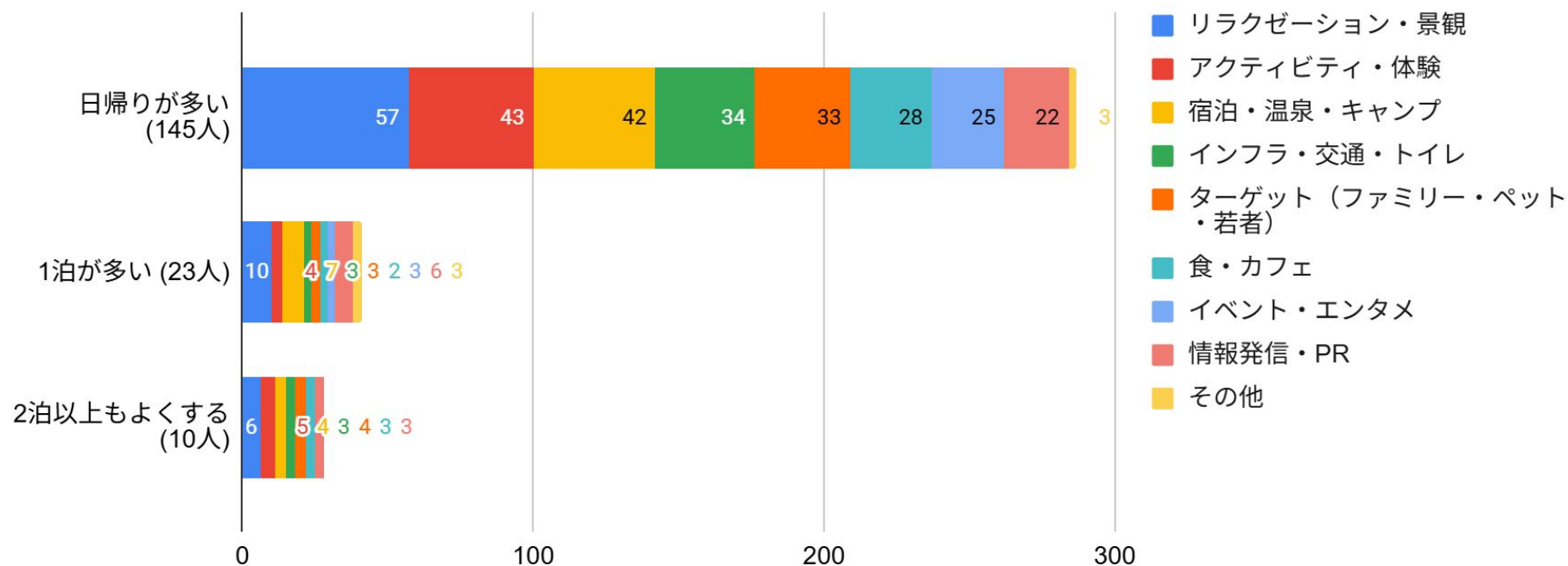


全コメントのカテゴリ分類

「日帰りが多い」（145人）という層が中心ですが、「宿泊・温泉・キャンプ（42）」への関心が非常に高いことが注目されます。これは「本当は泊まりたいが、近距離であることや、魅力的な宿泊施設・夜のコンテンツがないために日帰りで済ませている」層が一定数いることを示唆しています。

日帰り層を宿泊に転換させるには、まさにこれから新設されるキャンプフィールドや夜間のアクティビティ（星空観察など）をフックにする施策が有効と考えられます。また、普段から「1泊以上」する層（計33人）は「情報発信・PR」に関心が高く、滞在中の有意義な過ごし方（周辺施設との連携ルートなど）を求めていると考えられます。

普段のお出かけのスタイル × カテゴリ のクロス集計（実数積み上げ）



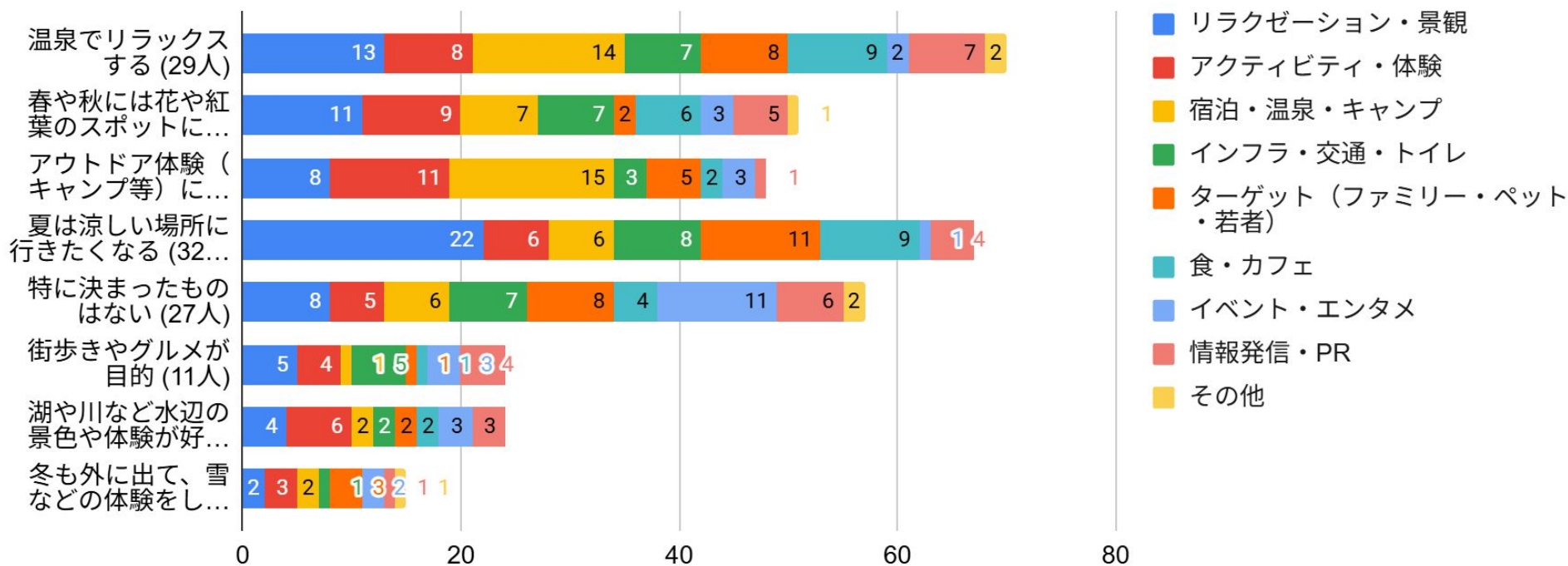
全コメントのカテゴリ分類

「夏は涼しい場所へ」を選ぶ層（32人）は「リラクゼーション」と「ターゲット（ペット等）」への関心が高く、避暑目的でのんびり過ごす層や、平地の猛暑を避けて愛犬と訪れる層が多いと推測されます。

「アウトドア体験」（28人）を選ぶ層は「宿泊・キャンプ」「アクティビティ」を強く求め、新設のキャンプ場と親和性が高いと考えられます。

また、「温泉でリラックス」（29人）は「宿泊」への関心が高くなっています。

普段の関心事項 × カテゴリ のクロス集計（実数積み上げ）



代表的なコメント

※読みやすさを考慮し、運営側で一部内容を抜粋・編集しております。

リラクゼーション・景観

【女性、30代、1~2回行ったことがある】

赤城山には、夏でも25度という涼しさや、冬の光がきらめく雪景色など、季節ごとに異なる魅力があると感じています。県外から訪れる立場としては、「都会では味わえない涼しさや静けさをどう体験できるか」が、週末に行こうと思う大きな決め手になります。

特に魅力的だと思うのは、湖畔で風を感じながら過ごす時間です。大沼の水面から吹く冷たい風の中で、散策や読書、コーヒーを楽しむような“避暑のひとつ”があると、また訪れたいくなります。木陰のハンモックや湖畔のテラス席など、自然の涼しさをそのまま味わえる仕掛けがあると嬉しいです。冬には、凍った湖面を歩く体験や、氷上ワカサギ釣り、雪原をゆっくり進むスノーシューハイクなど、非日常を感じられるアクティビティに惹かれます。夜には星空観察や焚き火のプログラムがあると、宿泊したくなる理由が増えると思います。

南麓では、花や農園をめぐるゆったりした時間や、地元食材を味わえる体験があると旅の満足度が高まります。季節ごとに違う自然と文化に触れながら、心が整うような滞在ができる赤城山を期待しています。

【女性、40代、近くまでは前橋市には行ったことがあるが、赤城山は行ってない】

予定を詰め込まず、自然のリズムに身をゆだねる滞在をしたいです。

アクティビティを楽しむ余暇も好きですが、静かに空や景色を眺めるだけの「ホッ」とするような時間を過ごす事が好きです。

早朝の大沼湖畔をゆっくり散策し、赤城山の澄んだ空気と静けさを味わう時間を取りたいです。赤城神社や湖畔での夕焼けも楽しみたいです。

宿では地元食材を使った夕食と、赤城の湯に何度も浸かり、敢えて“何もしない”という贅沢な時間を過ごしたいです。

2泊して、中日の昼間は散歩や、季節の良い時は軽いトレッキングはしたいです。あくまでも軽い運動程度で、のんびり心身を休めたいです。

神社仏閣も好きなので、気になる神社や歴史あるお寺にはお参りをしたいです。多少歩いても良いので、大きな駐車場に車を止め、散策しながらお参りできると嬉しいです。

旅先だからと無理をせず、じっくりと「温泉・その土地の自然や食材」に触れると、また必ず訪れたいくなります。

【男性、70代以上、何度も行ったことがある】

7月8月の天気の良い週末に道の駅で昼食などを買い物して、赤城山へ行きます。湖畔でテーブルや椅子を用意して、涼しい湖風と景色に満喫しながら妻とひと時を過ごします。近くには同じ様に楽しむ人達が多くおられます。湖畔は標高約1300m山の天気は変わりやすいので4時前には下山します。私たちの年齢では今はこの位が至福の時季です。

アクティビティ・体験

【女性、20代、1～2回行ったことがある】

群馬や赤城山周辺は自然が一番の魅力だと思うので、そこに山や自然があるというだけでなく、そこでどんな「体験」ができるかを押し出していけば週末に行ってみようかなという気持ちになります。

群馬には初心者でも登れる山が多く、赤城山も気軽にチャレンジできる山の一つであり、そこが魅力的だと感じています。

特に北関東では雪が降る地域が限られているからこそ、冬に初心者向けの登山やスノーシュー、スノートレッキングができて（それに付随するレンタルも充実していれば）「行ってみようかな」と思えるきっかけになるんじゃないかなと考えています。

また、以前前橋商店街で行われていた「前橋BOOKFES」のような、ほぼ日ならではの面白さのあるイベントが「ほぼの駅AKAGI」で開催されたらぜひ足を運びたいです。夏の涼しさを活かして、湖畔でのピラティスや屋外読書会など、自然の中で日常の行動を少し特別に変える体験があれば、赤城山はもっとワクワクする場所になると思います。

【男性、30代、1～2回行ったことがある】

前橋周辺を探索したことがありましたが、ワカサギ釣りができるとは知らなかったです。榛名の辺りで、ヤマメの踊り食いがあるように、ワカサギでも捕まえたワカサギがそのまま何か食べれるようなそんなアクティビティがあるとうれしいなあと思いました。特に子供は喜びそうです。

【女性、40代、何度も行ったことがある】

赤城山の黒槍山～駒ヶ岳ルートを年に数回利用しています。以下の点を改善していただけると、より安全で魅力的な登山環境になると感じています。

- ①登山口までの道路の歩道が狭く、歩行者にとって危険な区間があります。安全確保のため歩道整備を検討していただきたいです。
- ②下山後に利用できる温泉が登山口周辺に無く、あいのやまの湯・富士見温泉 見晴らしの湯へは車移動が必要で負担が大きいです。下山してすぐ入れる日帰り温泉施設があると利便性が大きく向上し、登山客の満足度も高まると思います。

★「登山 → 温泉 → ビール」という流れを気軽に楽しめる環境が整えば、赤城山の魅力がさらに高まると感じています。

宿泊・温泉・キャンプ

【女性、20代、行ったことはない】

キャンプが趣味ですので、綺麗で価格がお手頃なキャンプ場があれば良いと思います。

すでに2026年春に赤城大沼周辺にキャンプフィールドができるとのことで、綺麗なキャンプ場があるという点は満たしていると思います。

キャンプはキャンプ場だけではなく「行き帰りの道中を楽しめるかどうか」というのも重要だと思いますが、赤城山付近にはすでに「ぐんまフラワーパークプラス」や「富士見温泉 見晴らしの湯」、「ワカサギ釣り」などのアクティビティもありますので、満足度の高いキャンプが楽しめるのではないかと考えています。

キャンパーとしては、オープン予定の「ほぼの駅 AKAGI」に地元の食材がしっかりと取り揃えられていることを期待しています。

せっかく遠い地を訪れたのであれば、訪れた地の食材を購入し、「地元食材でキャンプ飯を楽しみたい!」という思いが強いので、ぜひキャンプで楽しめる地元食材をしっかりと揃えて欲しいと思います。

【女性、30代、行ったことはない】

小さい子どもを連れての旅行という立場から、意見を述べさせていただきます。

熱中症の心配から、夏は子どもを連れての外出が難しく、避暑地への旅行は魅力的だと感じます。

宿泊施設内における子ども向けサービスの充実は、子連れの宿泊客の増加につながると考えます。近年、館内にキッズスペースを設けるなど、子どもが遊べる環境を整えている宿泊施設が増えてきております。子連れ旅行の場合、子どもが退屈しないよう過ごし方を工夫する必要があり、おもちゃや絵本などを持参することも少なくありません。しかし、宿泊施設内に遊び場や絵本、おもちゃなど、子どもが楽しめる設備が整っていれば、荷物の負担も軽減され、より気軽に宿泊できるようになると感じます。また、雨天時には外出が一層大変になるため、館内で子どもが楽しめる設備があることは、大変ありがたいと存じます。

さらに、大人も楽しめる要素として、地域の美味しいものをテイクアウトできる店舗が多くあると、食べ歩きも楽しむことができ、滞在の満足度向上につながると感じております。

【女性、40代、行ったことはない】

東京の世田谷から出かけて行くにあたり、赤城山頂でキャンプ泊ができるのはとても魅力的です。夏の赤城山に登り、山頂の涼しい空気の中で過ごす時間は、日常を離れてリフレッシュするのにぴったりだと感じます。下山後には富士見温泉 見晴らしの湯で汗を流し、天気が良ければ富士山も望めるという景色を楽しめるのも嬉しいポイントです。近くに道の駅があるので、キャンプの食材を現地で調達したり、帰りに新鮮な野菜や特産品をお土産に買ったりする楽しみも広がります。御朱印集めが好きなので、赤城神社に立ち寄れるのも旅の大きな目的です。計画を立てるうえでは、車でのアクセスや駐車場、飲食店の位置が分かる観光マップが道の駅で手に入ると助かります。また、山頂に軽食を提供する山小屋があるかどうか、登山初心者としては安心材料になります。

インフラ・交通・トイレ

【男性、20代、近くまでは前橋市には行ったことがあるが、赤城山は行ったことはない】
冬には氷上ワカサギ釣りができるとは知りませんでした。都心から一番近いワカサギ釣りなのかも？でも、雪道を自家用車で行くのはちょっと怖いかも。冬のアクティビティには麓から送迎車とかがあると安心して参加できるかも

【女性、30代、1~2回行ったことがある】
夏でも涼しく、透明な湖の景観に心洗われたが、湖までの道のりがヘアピンカーブばかりで運転するのが大変。道路状況がよくないともう一度運転していきたいと思わない。お手洗いの整備・管理をしてほしい。

【女性、60代、何度も行ったことがある】
群馬県在住ですので毎日手の空いた時に眺めたり、休日にお弁当をもって出かけたりしています。静かでゆっくりできてとても良いところで大好きです。もう少しトイレが清潔でしっかり使えればもっと行きたくなる人が増えると思います。小沼のトイレは使えないように鍵がかかっています。だからほかのトイレが混んでしまいます。

ターゲット（ファミリー・ペット・若者）

【女性、20代、何度も行ったことがある】

赤城山を「愛犬と車中泊」の聖地にするのはどうでしょうか。赤城山は、私もよく車中泊や散歩・イベント参加で訪れていましたが、日帰りだけで帰ってしまうにはもったいない魅力が詰まった場所です。今のライフスタイルに合わせた「犬連れ」や「車中泊」という滞在型の仕掛けを強化することで、ただの通過点ではなく、全国から選ばれる「目的地」になれるポテンシャルがあると感じています。

例えば、夏でも涼しい標高を活かしたドッグラン。天然芝は素敵ですが、足が汚れにくい「人工芝」のエリアがあれば、車中泊や旅行中の飼い主には泣くほど嬉しい設備になります。小型犬から超大型犬まで安心して遊べる広場や、遊び終わった後にそのまま洗って乾かせる「セルフシャンプー台」があれば、帰りの車内も清潔で、家に着いたら寝るだけという最高の体験が提供できます。

さらに、大沼での犬連れカヌーやSUP、一緒に楽しめるワカサギ釣り、そして前橋自慢の豚肉やジビエを使った「手作りドッグフード体験」など、赤城山ならではのアクティビティも充実するとより魅力的ではないでしょうか。

宿泊面では、大掛かりな施設建設が難しくても、まずは「車中泊」を応援する仕組みはどうでしょうか。普通の乗用車でも車中泊デビューができるようなマットや用品の貸出、愛犬をノーリードで過ごさせられる「ドッグラン併設型サイト」があれば、初心者でも安心して滞在を楽しめます。夜は焚き火を囲み、朝は湖畔をお散歩。仕上げに、山を降りた後に県内の温泉でリフレッシュできる「朝風呂チケット」のようなものがあれば、前橋・群馬の魅力を丸ごと堪能できると思います。

【女性、30代、行ったことはない】

夏の旅行は、以前関東を訪れた際に暑さで体調を崩してしまった経験から、これまでは屋内中心のアクティビティを選ぶことが多くなっていました。ただ、夏でも25度前後の涼しい環境であれば、屋外の観光も無理なく楽しめ、旅の魅力がより広がると感じます。

旅行は未就学児の子ども2人を連れて2泊3日で行くことが多く、宿泊先を拠点に車で1時間以内に複数の観光スポットがあると安心です。小さな子どもでも参加できる水上アクティビティや、体を動かせるアスレチックがあればぜひ体験してみたいです。特に、水上カヤックのように家族みんなで一緒に体を動かせる体験には魅力を感じます。

その後は、ぐんまフラワーパークプラスで花の散策を楽しみながら、家族で写真を撮ったり、お花のサシェ作りといったワークショップに参加したりと、思い出に残る時間を過ごしたいです。

宿泊施設にもこだわりたく、ビジネスホテルのような簡素な宿ではなく、子どもの遊び場があったり、温泉でゆったりくつろげたりと、宿そのものも楽しめる場所が理想です。道の駅でご当地ならではの食や特産品を味わったり、グランピングにも挑戦してみたいと感じています。

【女性、40代、何度も行ったことがある】

子どもを連れて一日遊べる施設が欲しいです。川場の田園プラザのように、アスレチックや芝ソリ、川遊び、食べる場所やお土産を買う場所など、多くの施設が集まっているような場所が欲しいです。そして何より、駐車場が無料で完備されているということが大切だと思います。赤城山は地元なので何度も好きで訪れますが、お店などはなんとなくさびれていたり、夏場以外は閉まっていたりととても寂しい感じがします。とても綺麗でいい場所なので、もう少し整備して、長い時間いても遊びきれないような、何度も行きたくなるような施設が欲しいです。

食・カフェ

【男性、20代、1~2回行ったことがある】

大沼付近でゆっくりとできるカフェや休憩所などが欲しい
長時間の滞在がしづらい

【女性、40代、何度も行ったことがある】

昔、大沼から少し離れた食堂でシシカバブという500円のカレー味の串焼きを食べに赤城山へ行っていました！！
子供達は、池の鯉に餌をあげたがったり大沼の自然の川で川遊びをさせたりしました。またカレー味の串焼きが食べたいです。大沼のそばのお店でやってくれたら嬉しいです！！

【女性、50代、何度も行ったことがある】

赤城大沼付近のお店は古くさいお土産やさんばかりなので入らないです。たまに大沼を1周歩いたり登山に行っても、山をずっと下ったところのお店に行きます。もっとおしゃれなカフェとか登山客向けのアウトドア用品のお店とかパン屋さんなどがあると、もっと行こうかなという気になります。
スノーピークのキャンプフィールドとビジターセンターのオープンが楽しみです。

イベント・エンタメ

【女性、20代、1~2回行ったことがある】

群馬や赤城山周辺は自然が一番の魅力だと思うので、そこに山や自然があるというだけでなく、そこでどんな「体験」ができるかを押し出していけば週末に行ってみようかなという気持ちになります。

群馬には初心者でも登れる山が多く、赤城山も気軽にチャレンジできる山の一つであり、そこが魅力的だと感じています。特に北関東では雪が降る地域が限られているからこそ、冬に初心者向けの登山やスノーシュー、スノートレッキングができて（それに付随するレンタルも充実していれば）「行ってみようかな」と思えるきっかけになるんじゃないかなと考えています。また、以前前橋商店街で行われていた「前橋BOOKFES」のような、ほぼ日ならではの面白さのあるイベントが「ほぼの駅AKAGI」で開催されたらぜひ足を運びたいです。夏の涼しさを活かして、湖畔でのピラティスや屋外読書会など、自然の中で日常の行動を少し特別に変える体験があれば、赤城山はもっとワクワクする場所になると思います。

【女性、40代、何度も行ったことがある】

週末限定のイベントを毎週は大変なので隔週で行うとよい。

湖で石投げ飛ばしイベント・・・石投げのコツ〈石選びや持ち方・投げ方〉を解説しながら、石探しをする。

赤城山で出会う雑草探し当て

・雑草の名前を説明して時間で周辺で探しだし、どこ草が多く生えているのか現地調査を皆でしてみる。

特別な準備は必要なく、雑草などは時期によって違う物も探せるので、また参加してみてくださいと春秋にと参加する楽しみが出来る。

【男性、50代、近くまでは前橋市には行ったことがあるが、赤城山は行っていない】

群馬県は学生時代はスキーで毎年通っていました。嬭恋村、万座、北軽井沢、草津が中心でした。ここ数年は桐生市のjazzVillageに山中千尋さんのピアノ演奏を聴きに通っています。そのときに赤城周辺を通ります。群馬は千尋さんと共演した交響楽団もありますし、高崎市は「音楽都市」であり、知事と千尋さんの対談も拝見しました。ヨーロッパで開催されるような山の中でのコンサートがあると赤城山周辺にぜひ、行ってみたくになります。そのままコテージに泊まるのも憧れます。焚火も体験してみたいです。

情報発信・PR

【女性、30代、近くまでは前橋市には行ったことがあるが、赤城山は行っていない】

赤城山だけだと「行って帰る」になりがちかなと思いました。赤城山 → 前橋市街(カフェ・ごはん) → 道の駅で買い物といった鉄板の1日が完成するルートを地図で提案してほしいですね(車が基本必要になるとは思いますが、なくても誰でも楽しめる版もあると嬉しい。高齢の母が行く場合を想定して)

【女性、40代、何度も行ったことがある】

温泉は好きで旅行などで目当てに行くが、赤城は小さく古めかしいとこばかりな気がして、足が向かない。まずそんなに情報が無く自分もしっかり調べてないのもある。良さが伝わるようにすると、行きたくなるかも。

【男性、50代、何度も行ったことがある】

長野県民です。避暑地として有名な軽井沢ですが、日帰り、宿泊ともに実は長野県民が多いです。距離的、心理的な近さがあると行ってみようかとなるかなと思います。赤城山には数々の魅力があると思いますが、群馬県民に知られていないのかなと感じます。新しい施設もオープンするようなので、「発信」に力入れてみるのもよいのかなと思います。応援しています。

全体考察

全体考察①

1. コメント結果が示す赤城山

日帰り×群馬県民の集中構造

回答者の約8割が群馬県在住、滞在スタイルは日帰りが多いが8割。赤城山は地元の人がふらっと行く場所として定着しており、この層にとっての最大の関心は「リラクゼーション・景観」（静かに涼しく過ごしたい）です。一方で、飲食・カフェの満足度が低く、「行っても長居できない」「寂れている」という声が滞在時間を短くしていると考えられます。

県外潜在層のボトルネックは想起されないこと

東京都回答者15名中、「情報発信・PR」への言及が7名と最多カテゴリ。未訪問者18名中8名も同様。つまり県外からの来訪を阻んでいるのは赤城山に魅力がないではなく赤城山が選択肢に入っていないという認知・想起の問題です。複数の回答者が軽井沢・日光・草津を選んでしまうと明言しています。

女性の声が見す「体験の質」への期待

女性回答者は「食・カフェ」で男性の4.5倍。単にハードを増やすのではなく、おしゃれなカフェ、清潔なトイレ、子ども・ペット同伴可など体験の質・心地よさを重視しています。

全体考察②

2. 赤城山固有の強み

コメントでは回答者自身が赤城山の本質的な魅力を的確に語っています。

近さ×標高差の希少性

前橋市街から車30分で標高1,300m、東京からも約2時間。これだけの標高差をこの近距離で体験できる場所は首都圏周辺では限られています。千葉の30代男性は「赤城山までは2時間強で行けるため、旅行先としての選択肢に入れるなど認識しました」と書いており、知れば選ばれる距離感です。

何もしない魅力

アンケートで最も共感的に語られているのは、「木陰で昼寝ができ気分が爽快」「湖畔でテーブルや椅子を用意して涼しい湖風と景色に満喫しながら妻とひと時を過ごします。私たちの年齢では今はこの位が至福の時季です」「何もしない贅沢を感じたい」といった声です。これは他の有名避暑地が商業化・混雑化する中で、逆に**開発されすぎていないことが価値になる**ということを示していると考えられます。

四季の振れ幅

夏の避暑だけでなく、冬の全面凍結湖・氷上ワカサギ釣り・アイスバブル・雪山登山、春のツツジ、秋の紅葉。「冬でも見どころがあるのを知りました。1年を通して素晴らしい体験ができるということ売り出しては」という地元30代女性の気づきは、赤城山の通年コンテンツとしてのポテンシャルを示しています。大阪在住の30代女性が「群馬で氷上ワカサギ釣りができるとは知らず大変驚きました」と書いているように、知られていない冬の魅力が価値となっていると考えられます。

全体考察③

3. ポジショニングとして「都市近接型のリトリート」

これらを総合すると、赤城山のポジションとしては、例えば軽井沢のような既存の有名避暑地ではなく、それらとは異なる価値軸での差別化が可能であると考えられます。

既存の有名避暑地はブランド×商業的洗練×滞在型リゾートとして完成度が高い一方、混む、高い、観光客で賑わいすぎるといった面もあります。

赤城山のポジションは、**東京から2時間、標高1,300mで手に入る静けさで、都市近接でありながら観光地化しすぎしていない、自然のそばで静かに過ごせる場所としてのリトリート空間**です。これはアンケート回答者自身が語っている赤城山であり、群馬県が推進する「リトリートの聖地」構想、県立赤城公園の「赤城ウェルグラウンド」構想とも自然に合致すると考えます。

コメントから開発されすぎているから行きたい、という層が確実に存在します。例えば、「開発が進むことへの懸念」を示す地元リピーターが複数おり、「静かに楽しめる環境を残してほしい」「自然を壊さないでほしい」という声は、赤城山の本質的価値を最もよく理解している人たちからのものと考えられます。

全体考察④

4. ソフト施策の方向性ー1

2026年にはスノーピーク赤城キャンプフィールド（春開業）やスノーピークランドステーション赤城（秋以降開業）が控えており、ハード面の基盤は大きく改善します。それらも総合的に踏まえて、全体的な方向性をご提言します。

方向性① 滞在の理由を時間軸で設計する

アンケートで60代男性が繰り返し推奨している鳥居峠の雲海・日の出・ダイヤモンド筑波山、複数の回答者が求める星空観察会、らんたん祭りの定期化など、これらは赤城山が持っている資源です。これをキャンプフィールドやランドステーションの開業に合わせて**定期的なプログラム**として運営すれば、泊まらないと体験できないコンテンツとなると考えられ、日帰り構造を崩す起点になります。冬も、「ワカサギ釣りに行きたいが雪道が怖い」という声に対し、**麓からの送迎＋ワカサギ釣り＋温泉のセットパッケージ**の設計などが考えられます。

方向性② 選ばれるための情報の具体化

東京30代女性の「赤城山→前橋市街（カフェ・ごはん）→道の駅で買い物という鉄板の1日ルートを地図で提案してほしい」、関西40代女性の「おすすめスポットを回れる一泊二日ルートを公開されてもいいかも」といった声に応えるのは、**季節×同行者タイプの組み合わせで具体的な過ごし方を提案するコンテンツ**と考えられます。

東京の20代男性が「ここでしかできない体験が一言で伝わると選びやすい」と述べている指摘をもとに、「東京から2時間、標高1,300mの湖畔で何もしない夏」のような、体験を想起させるワンフレーズが有効とも考えられます。

全体考察⑤

4. ソフト施策の方向性ー 2

方向性③ ペットとのリトリート

コメントのクロス分析で具体的なニーズの一つが、犬・ペット関連です。「涼しい赤城山にドッグランが充実していれば毎週でも通いたい」「犬も連れて行くが犬OKなカフェがない」「愛犬の聖地にしてはどうか」と、特に女性から切実な声が多数寄せられていました。

夏場の平地では犬の散歩も危険な猛暑という構造的な問題もあり、**涼しい赤城山こそが夏の愛犬家の避難先**になりえると考えられます。新キャンプフィールドにドッグサイトが設けられることでハードの基盤ができます。ソフト面で赤城山エリア全体でのペット同伴ガイドの整備（どの店が犬OK、どのルートがペット向きか等の情報集約）が有効とも考えられます。

方向性④ 静けさの価値の発信

コメントでは「自然を壊さないでほしい」「静かに楽しめる環境を残して」「観光客が増えらうんざりする」という内容がありました。

開発しない場所がある、自然の静けさを守ることを選んだ山であるといった、県の構想を反映したメッセージを積極的に発信することで、他の避暑地が賑わいや利便性を強みとする中で、赤城山の魅力を差別化できるのではないかと考えます。景観ガイドラインの策定やデザインコードの整備はまさにこの方向を支えるものであり、ブランド形成にもっと活用することが重要と考えます。

PoliPoli Gov